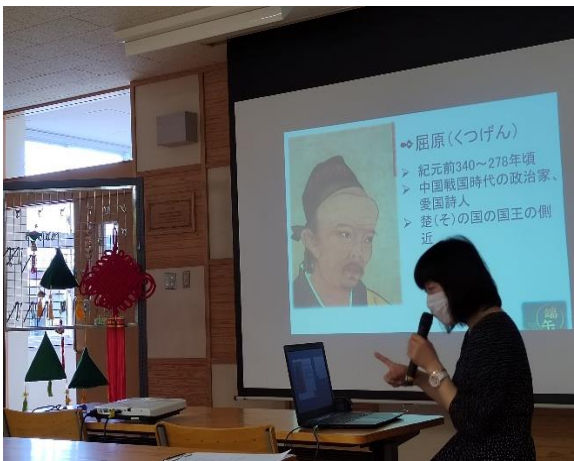


津山商業高校生を対象に中国文化交流会が開催

5月21日(土)10時より約2時間、岡山県立津山商業高校で中国文化交流会が対面で実施された。高校側が一年生5名と担当教員2名、そして孔子学院スタッフ5名が交流会に参加した。



交流会では、前半は孔子学院の事業及び活動について紹介され、岡山商科大学と中国側提携大学である大連外国語大学のプロモーション動画を鑑賞した。後半では中国の伝統祝祭日である端午節が今年6月3日であるため、端午節の由来と風習及び行事食として食べられる中華粽について説明された。また、中国結びの「平結び」を皆で作ってみた。交流会の最後に端午節の雰囲気を感じてもらうために中華粽を用意した。



毎年、孔子学院の恒例活動としての当イベントであるが、同時に文部科学省・私立大学教育研究活性化設備整備事業を利用した岡山商科大学の遠隔通信システムによる国際交流事業の一環でもあり、津山商業高校中国語受講生を対象に、遠隔授業が実施され、開講に先立ち受講生を中心に交流会が開催されている。2年前の新型コロナウイルスの感染が拡大するまでは、孔子学院スタッフが食材を持参し、高校へ出向き、受講生と一堂に会して粽や餃子を作りながらコミュニケーションをとる形で行われていたが、コロナ禍によって昨年度の交流会は中止を余儀なくされた。今年度は安心安全な交流会を対面で実施しようという狙いのもとで、盛んな会話によるコミュニケーションがなくても豊かな時間が過ごせるように、主に動画鑑賞、PPT 説明、及び手芸体験を通して、短い時間ではあったものの、孔子学院の活動内容及び商大、外大の存在のみならず、中国の伝統文化、民間風習、及び中国語の世界をリアルに体感できた有意義なひと時となった。



今回の交流会に参加した5名の学生は来週5月27日（金）から遠隔中国語講座を週1回30分、計8回受けることになっている。中国語講座受講を希望する理由は「中国語講座受講生募集チラシを見て面白そうと思ったから」、「中国人とコミュニケーションを取りたいから」、「中国文化を知りたいから」、「眼鏡店をやっており、工場は中国にあるため、将来役に立つと思うから」だという。将来についてたくさんの可能性をもつ高校一年生だが、孔子学院という場を通して中国語と出会うことによって、今後の人生では必ずやより多くの選択肢が得られるようになるであろう。

